

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

1. くらしき作陽大学の建学の精神・大学の基本理念、使命・目的

創立者、松田藤子は仏教への信仰心のあついで母に育てられた。成人して学校に奉職した頃より、当時、安芸の親鸞といわれた住岡夜晃に師事し、大乘仏教を学んだ。住岡は教職を投げ捨てて宗教活動に生きる道を選んだ人で「人生とは教化の場であり、教育とは、子どもに優れた霊を乗り移す(子どもに対するスピリチュアルないのちの豊かな成長をはぐくむ)ことである。宗教も教育もともに人格完成、人間形成をめざす面で一致するが、教育は知識を教え、宗教は智慧を与える。教育は事実を教えるが、宗教は真実を示す。宗教は教育を抜きにしては考えられない以上に、教育は宗教を抜きには考えられないし、成り立たない。宗教のない教育は、人間をいびつにしてしまう。宗教と教育は不可分一体である」との信念を持っていた。住岡に影響を受けた創立者は、学校教育が知識偏重になり、人格形成が軽視される現場の状況から、将来の日本社会を憂え、大乘仏教の教えを中心とした学園を創立したのである。

本学の建学の精神は「大乘仏教に基づく豊かな人間性の涵養」である。これは創立者の「聖の教えは若い人の心の糧であり、精神の栄養であります。若い日に真理を求めて永遠の幸福とは何であるかを知り、永い人生生活を強く、正しく、明るく生き抜き奉仕と感謝がにじみ出るような豊かな人間性の養成に私の生涯を捧げたい」との熱い志から生まれた。

創立者は学園創立に当たって、恩師よりたむけられた「念願は人格を決定す 継続は力なり」の言葉を本学園の教育並びに運営の中心とした。本学はこれを学是としている。この言葉は、「人は幸せになりたいとの願いをもつ。それは生みの親の願いであり、大いなるもの(み仏)の願いでもある。真の幸せとは立身出世や富者になることではなく、利他の心を持ちいきいきと生きることである。仏教でいう布施の心を養い、実践し継続するところにその人の真の人格が決定される」ことを意味している。

これまで本学の建学の精神の教育は学生に対しての宗教の授業で行うのに止まっていた。教職員に対しては大学創立以来、初任時にも教育がなされず、全く自由であった。私学の存在意義が建学の精神にあることから、教職員も理解を深め、任務を果たすうえでも建学の精神がにじみ出ることが望まれる。そのため全学で建学の精神の理解を一層深めることとし、本学の使命・目的を簡潔に表す標語として「菩薩道を歩むプロの養成」を掲げた。これは教職員の使命・目的でもある。

本学の建学の精神の基である大乘仏教は、苦悩多い現実人生を乗り越え、^{あんじん}安心の世界に入ることが最も重要であるとしている。そのために、いかに生活すべきかを示したのが六波羅蜜(布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧)である。これを六度といい、これを行じる者を菩薩というところから「菩薩道を歩むプロ」こそ今日の社会が求めている人間像であるとした。

本学の学則には「本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、高等教

育の基礎のうえに 4 年の音楽または食文化に関する大学教育を施し、良き社会人を育成することを目的とし、宗教的情操教育を施して信念と道義心とを涵養し、以て大学教育の普及と地方文化の向上とを図ることを使命とする」との文言を掲げ本学の目的ならびに使命を示している。

建学の精神に由来する学是は、学則に定める目的と使命を遂行するうえでのバックボーンとなるものである。

2. 本学の個性・特色

本学の歴史のはじまりは、昭和 36 年に設置した作陽短期大学保育科までさかのぼる。保育科では音楽、図画、体育は重要な科目であったが、その中でも特に音楽に力を入れていた。その延長として昭和 38 年に短大に音楽科を設置した。その後、音楽科卒業生の希望もあり昭和 41 年に地方では珍しい音楽大学を設置した。当時は、日本の 18 歳人口、経済、音楽産業等全てが右肩上がりであったこともあり、受験生が入学定員をはるかに超す状況が続いた。地味で誠実な学生が多いことから地方の教員やホームレスナーあるいは企業の音楽教室の講師等教育関係の仕事に就く者が大半であった。昭和 50 年代の中頃から、学生も保護者も山紫水明の地よりも都会を志向するようになってきた。18 歳人口の減少も予測されていたこともあり、中国山地にある津山から県南の都市へ移転すべく努力していたところ、倉敷市より誘致の話があり、平成 8 年に現在の地に移転した。

平成になって短大よりも学部への進学志向が強まったこともあり、短大の家政学科と幼児教育学科の入学定員を用いて食文化学部をつくり、さらに音楽学部の定員増を図った。音楽学部には新しく専修をつくり、より幅広い専修をもつ音楽学部とした。中でもチャイコフスキー記念ロシア国立モスクワ音楽院(以下「モスクワ音楽院」)との提携による「モスクワ音楽院特別演奏コース」と「日本伝統芸能専修」は他大学に見られない内容をもつものである。

短大の幼児教育学科の廃止以来、卒業生や幼児教育関係施設から復活の要望が続いていたことと、今日の幼少時の教育ならびに幼児の保護者に対しては本学の教育こそ適しているとの判断から、平成 20 年度に音楽学部と食文化学部の定員の一部を使い「子ども教育学部」を新設すべく準備を進めている。これには、ここ数年続いている定員未充足を解決するねらいもある。

上記の建学の精神を基盤とした学部と事務局と具体的な目的と使命を示すものとして策定したのがグランド・ミッションである。グランド・ミッションと建学の精神に則って年度ごとに大学の基本方針を立て、そのもとに学部と事務局がその年度の重点目標を設定し、それぞれに基づいて各教職員が各人の目標を掲げて大学の教育・運営に携わることにしている。これらは Plan-Do-See-Check の一連のマネジメントサイクルに組み入れられている。

本学の教育の特色は、豊かな人間性の涵養を基本とし、そのうえに音楽及び食に関する専門職業人を養成することである。

音楽学部には西洋音楽全般の他に音楽療法、アートマネジメント、音楽デザイン、

音楽教育、吹奏楽指導等の専修がある。これらの他にモスクワ音楽院特別演奏コースとわが国の伝統芸能である能、狂言、日本舞踊、邦楽等を学ぶ日本伝統芸能専修がある。音楽学部では、これまで多くの卒業生が音楽関係の教育に携わっていることから演奏力のある教育者を養成し、地方の芸術ひいてはわが国の芸術文化の裾野の拡大とレベルの向上に寄与することをめざしている。

食文化学部には、人間の健康の維持向上に深く関わる栄養学科(管理栄養士養成課程)と食生活学科(栄養士養成課程)があり、さらに食品産業が求める人材を養成するフードシステム学科がある。従来のように食を自然科学からだけ捉えるのではなく、人文科学や社会科学といったさまざまな方向から捉え、食の問題を探求し、地球規模での食と健康の問題に貢献することをめざしている。

音楽と食という専門領域の違いはあるが、将来学生たちが社会人となってから、それぞれの専門を活かしつつ、地域社会に、あるいは広く人類社会のために貢献することをよこびとするような教育が本学の特色である。

Ⅱ. くらしき作陽大学の沿革と現況

1. 本学の主な沿革

(ゴシック体は大学の沿革)

昭和 5. 4.	津山女子高等技芸学院を津山市南新座に創立
25. 12.	学校法人作陽学園設立
26. 4.	作陽短期大学(家政科定員 80 名)設立
32. 4.	作陽短期大学別科新設(家政専修定員 30 名)
36. 4.	作陽短期大学保育科(入学定員 40 名)新設
38. 4.	作陽短期大学音楽科新設(入学定員 30 名)
39. 4.	作陽短期大学保育科入学定員を 50 名に変更
41. 4.	作陽学園大学設立(音楽学部音楽学科入学定員 50 名)
42. 4.	作陽短期大学に専攻科音楽専攻新設(定員 10 名) 作陽短期大学音楽科入学定員を 50 名、保育科入学定員を 100 名に変更
43. 4.	作陽短期大学に専攻科保育専攻新設(定員 20 名) 作陽学園大学を作陽音楽大学と改称
45. 4.	作陽音楽大学に音楽専攻科新設(定員 10 名) 作陽短期大学家政科、保育科をそれぞれ家政学科、幼児教育学科に改称 作陽短期大学専攻科保育専攻を専攻科幼児教育専攻に改称
46. 4.	作陽短期大学家政学科を家政専攻(入学定員 40 名)と食物栄養専攻(入学定員 40 名、男女共学)に専攻分離
49. 3.	作陽短期大学家政専修別科廃止
50. 4.	作陽音楽大学音楽学部教育音楽学科教育音楽専攻(入学定員 20 名)、幼児教育専攻(入学定員 30 名)新設
58. 4.	作陽短期大学家政学科家政専攻に生活福祉コース、生活情報コース新設
62. 4.	作陽短期大学情報処理学科(入学定員 100 名)を岡山市矢津に新設 作陽短期大学音楽科入学定員を 80 名に変更 作陽短期大学家政学科家政専攻入学定員を 30 名、幼児教育学科入学定員を 80 名に変更 作陽音楽大学音楽学部音楽学科入学定員を 80 名に変更 作陽音楽大学教育音楽学科入学定員を 40 名に変更
平成 2. 3.	作陽音楽大学教育音楽学科幼児教育専攻廃止
5. 4.	作陽音楽大学音楽学部音楽学科 3 年次編入学定員 30 名、教育音楽学科 3 年次編入学定員 10 名新設
8. 4.	作陽音楽大学、作陽短期大学音楽科が津山市より倉敷市に移転

9. 4.	作陽音楽大学をくらしき作陽大学と改称し、食文化学部食生活学科(入学定員 90 名)新設 くらしき作陽大学音楽学部音楽学科入学定員を 120 名に変更し、情報音楽、アートマネジメント等新専修を新設、音楽学部教育音楽学科入学定員を 60 名に変更し、吹奏楽指導者等新専修を増設
10. 3.	作陽短期大学家政学科家政専攻、食物栄養専攻、幼児教育学科ならびに専攻科幼児教育専攻廃止
11. 4.	くらしき作陽大学食文化学部食生活学科 3 年次編入学定員 20 名新設
12. 4.	くらしき作陽大学音楽学部音楽学科にモスクワ音楽院特別演奏コース、日本伝統芸能専修を新設 くらしき作陽大学教育音楽学科に音楽療法専修新設 作陽短期大学音楽科にミュージカル専修新設
14. 4.	くらしき作陽大学食文化学部食生活学科入学定員を 50 名に変更 くらしき作陽大学食文化学部フードシステム学科(入学定員 60 名)、栄養学科(入学定員 80 名)新設
15. 3.	作陽短期大学情報処理科廃止
16. 4.	くらしき作陽大学食文化学部栄養学科 3 年次編入学定員 16 名新設、 食生活学科 3 年次編入学募集停止
17. 4.	作陽短期大学音楽科に音楽デザイン専修新設
18. 4.	くらしき作陽大学音楽学部教育音楽学科を音楽教育学科に改称
19. 4.	くらしき作陽大学音楽学部音楽学科の情報音楽専修を改組し音楽デザイン専修新設

2. 本学の現況(平成19年5月1日現在)

- ・ 大学名 ぐらしき作陽大学
- ・ 所在地 岡山県倉敷市玉島長尾 3515 番地
- ・ 大学の構成

